

校長室だより

共学共高

第
97
号

令和8年9月15日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

楽しんだ！第63回白梅祭

9月12日（土）の公开发表及び13日（日）の一般公開日のクラス企画等について、いくつか御報告したい。私は、校内発表の際に、可能な限りクラスを見るように計画しているが、どうしても1日では回り切れないのが実情である。一部の企画は一般公開日に見ることになった。

2年4組の「コインランドリー」。タイトルを初めて見たときに、「教室で洗濯してどうするのだろう」と思ったが、「コインランドリー風コーヒークップ」のことであった。木材で作ったコインランドリー風のコーヒークップが4つ、パイプの骨組みの上にのせられている。一つのカップは2人乗りであるから、一度に8人が楽しめるようになっている。係りの生徒が注意事項を説明した後に、各カップで回転の練習をする。カップ内のハンドルを回すと自身のカップが回転するようになっている。本物のカップと全く同じ動きで驚く。続いて、各カップに担当の生徒が1名ついて、全体が回転し始める。4つのカップが一斉に回りながら、かつ各カップを手動で回転させることもできるようになっている。どうやってこれを作ったのだろうか、と私の中ではブラックボックスであったが、見事な動きだ。回転するときに感じる加速がスリリングだ。回転が止まってカップを降りると、目が回っていてふらふらする。「楽しすぎる」これが率直な感想である。クラスの保護者の方にお手伝いをしていただいて製作したと、担任のE先生が教えてくれた。



3年6組の「UmeZania」。科学者、鑑識官、薬剤師、メイクアップアーティストの4つの職業体験ができる企画である。受付で体験したい職業を選んで、案内されたコーナーへ行く。私は4回受付をして、すべての職業を体験した。科学者体験では、まず射的をやって点数を稼ぐ。自分の稼いだ点数に比例して星の数が増えるカードを受け取り、その星を線で結ん

でオリジナルの星座を創るという企画だ。私は「ピカチュウ星座」を創った。続いて、薬剤師。こちらでは白衣を着せてもらい、処方箋にしたがって準備をする。処方箋の患者名は「竹家彰」（私の名前は武内彰）とある。担当生徒も思わず苦笑い。薬に見立てたプラスチック製の小球を1回3錠、7日分に分ける。なんと、この機会は本物の分包機で、スイッチを押すと、1回分ごとにビニル袋に小分けされた状態で出てくるのである。続いて、軟膏を創る。自分で選んだ白と青の軟膏に見立てたペースト状のものを板の上で均一な色になるまでヘラで混ぜる。その後、容器に入れて完成である。参加賞として絆創膏がもらえる。続いて鑑識官。こちらでは担任のN先生を殺した犯人をなぞ解きに正解して当てるというものだ。犯人候補者にはなぜか私の名前と写真まである。紹介文には「バドミントン部顧問。インスタフォローして」とある。ここで白梅祭期間中にフォロワーが増えた理由が明らかになる。色のついた番号が一行に並べられたものから犯人と関連した言葉がわかるようになっている。私は降参だ。担当生徒に大ヒントをもらって、たどり着いた。続いて、メイクアップアーティスト。カードを引いて、指示された髪型とメイクを3分間でマネキンに対して施すという企画だ。担当のYさんが私の顔を見て思わず笑いをこらえているのがわかる。私のミッションは「ポニーテールのギャル」であった。ポニーテールは何とかなったが、ギャルメイクがわからない。そもそもギャルメイクの人にお目にかかる機会がないからだ。適当に塗りまくって、制限時間を迎えた。無事に4つの職業について、認定証をいただくことができた。



1年6組の「じゃあ、あんたが倒してみろよ」。校内発表の開始時間にきちんとスタートしたクラスである。私が最初のお客だ。2人の生徒がチームの一員として加わってくれ、大きなサイコロを投げてすごろくをしていく。途中で、ゴールドポイントをゲットしながら進む。このポイントに応じて魔王と戦うためのグッズに交換することができるのである。また、途中で強制的に止められて、クイズに制限時間以内で解答しなければいけないミッションも2か所ある。なかなか面白い企画だ。1500ゴールドポイントをゲットした私たちチームは、魔王の攻撃を止めるグッズをゲットして、対戦に臨む。魔王との対戦は・・・無事に勝利してゴールである。



1年7組の「白梅姫」。1年生ながら演劇に挑戦した。黒梅学園に在籍する白梅姫は男性アレルギーをもつ。半径2, 3m以内に男性が来ると倒れてしまう。したがって、白梅姫が通う黒梅学園は当然のことながら女子校である。その黒梅学園に共学化の話が舞い込む。バドミントンが趣味の校長はそれを進めようとするが、白梅姫にとっては、ピンチだ。共学化を阻止するために動こうとするが、白梅姫の友達の中には共学化して青春したいと考える生徒がいた。その生徒が共学化を進めるために画策するというストーリーだ。どのキャストも素晴らしい演技力で1年生とは思えない。場面展開の際もスタッフが手際よく動いていてチーム力がある。この脚本は誰が書いたのかしら。



3年生は先に紹介した6組以外は飲食を扱うクラスがそろった。内装の出来具合がいいクラスが目についた。2組の「アリスのティーパーティー」では、ワッフルを購入したが、アリスが商品を渡してくれるアイデアがよい。4組の「女子校すぎるよカフェ」ではシューアイスを購入したが、「女子校あるある」がいろいろと掲示されていて、共感するものにシールを貼ることができる企画があった。私は「雨の日には校内で靴下が干される」に投票した。



父母と先生の会による「キッチンカー」も大変な人気であった。特に午後は行列が途切れない様子であった。私はすいている午前中のうちに、小籠包とタピオカを購入した。また、保護者の方々によるブースも設けられ、私もオリジナルグッズを購入した。

生徒会による恒例のスタンプラリーも商品が素敵で人気であった。私もストラップをいただくことができた。



実は、私が顧問を務めるバドミントン部は昨年に引き続き、「つぶつぶアイス」を出品した。昨年は、早々に売り切れてしまったので、昨年の倍以上となる 576 個を仕入れたのである。私は幹部に対して「強気でいきなさい。売れ残ったら私が買い取るから」と伝えていたのである。彼女たちは安心して強気の発注をしたのだが、初日の時点で販売できたのは 139 個。2 日目の午前中が終わっても、売れ行きが伸びない。3 年生部員まで動員してシフトを組んでいるではないか。私も数時間、応援に入った。なんとか、2 日目の午後 2 時には完売となり、生徒たちは達成感からか、抱き合っていた。強気が吉と出た瞬間であった。

来場者の投票によるグランプリは、どのクラスに輝くのか。今から楽しみである。様々な場面で生徒たちは力を発揮し、活躍する姿を見せてくれた。たくさんの笑顔や悲鳴（お化け屋敷系の企画で）を見聞きすることもできた。白梅生らしい文化祭を創り上げてくれたと感じている。



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）